

平成28年 7月27日
日本測量者連盟
第2分科会委員長
中 堀 義 郎

国際測量者連盟（FIG）第2分科会参加報告

クライストチャーチで行われた国際測量者連盟（FIG）作業週間における第2分科会関係のミーティング及び技術セッションに出席したので、次の通り報告する。

1. 分科会年次ミーティング 5月4日17：30～

第2分科会年次ミーティングへの出席者は、委員長を含め4人（オランダ、カナダ、ニュージーランド、日本）であった。WG委員長等の役職者が全員欠席したため、分科会ミーティングでは、分科会委員長が初参加の参加者に対して分科会の活動を紹介するにとどまり、WGの活動報告及び今後の活動計画等は次回ヘルシンキで議論することにして、ミーティングは解散した。

第2分科会ミーティングの参加者が少なかった理由としては、第2分科会の活動的なメンバーのほとんどがヨーロッパの大学の現役の教員で、比較的女性が多いため、ヨーロッパから何回も飛行機を乗り換えてはるばるニュージーランドまで来るのは難しかったという事情があったようである。

2. 技術セッション

第2分科会の技術セッションは、「TS02G 測量教育の充実」及び「TS05G 将来の教授法と学習法」の2つで、それぞれ3件及び6件の発表が行われた。当初、4つのセッションが計画されたが、申し込みの取り下げが多くあり、2セッションとなった。それぞれの発表内容は、以下のとおりである。

2.1 技術セッションTS02G「測量教育の充実」5月3日16：00～17：00

- 南オーストラリア測量評議会のニートウシュケ委員長と南オーストラリア大学のスタッフは、南オーストラリアにおける測量者不足への対策として実施している持続可能な測量教育について発表した。南オーストラリア大学は、学生減少のため2006年に測量学科の学部学生を募集停止にした。評議会は、州内の地籍調査のために必要な測量者を確保するため、大学と協議し、企業が大学と協働し、財政的にも支援を行うMaster of Surveyingという新しい教育モデルを作り出した。

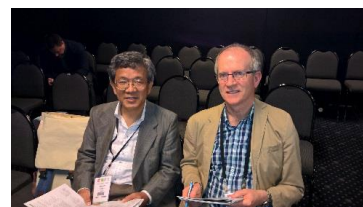
- カルガリー大学のランジェローヴァ等は、社会的責任感の育成という観点でカルガリー大学の工学教育を概観し、事例として空間情報工学を取り上げてコースの改善点について論じた。
- インドネシアのネネン・ファチマー氏は、バンドン市の小学校の生徒に対する地震防災教育とその効果について論じた。

2.2 技術セッションTS05G「将来の教授法と学習法」5月4日16:00～17:30

- ラップランド大学（フィンランド）のルンムカイネン博士は、人口密度が低く大学から離れたところで生活し、働いている学生のための遠隔学習による測量教育について発表した。
- オーストラリア海軍水路部のブレイス部長他1名は、職業水路測量者の資格を国際標準にする道筋をつけるために行ってきたオーストラリア水路測量者資格パネルの過去20年にわたる活動の概要について紹介した。
- 中国寧波市にある英国ノッチングム大学中国寧波校のハンコック助教授は、発展著しいBIM(Building Information Modelling)に関する授業を修士及び学士コースの学生に対してスタートさせ、今後教育・研究ラボを整備し一層教育を充実させる計画であることなどの紹介をした。
- 日本測量協会の中堀は、授業支援のためのe-ラーニングシステムである「WebClass」を、埼玉大学における測量学及び測量学実習の教育活動に活用した経験について紹介した。また、大学における測量の教師が不足していると言われていて、日本において、e-ラーニングはより多くの学生の学習管理が可能であり、有用であろうという議論を行った。
- ナイジェリアのンジケ博士は、ナイジェリアにおける土地開発の発展をレビューし、地理空間情報技術の利用によりナイジェリアの土地改革を再設計する提言を行った。
- 応用科学大学(ドイツ)のクレメン教授はダブリン工科大学の共著者と共に、BIMの教育法について両大学で行われている試みについて紹介した。BIMは、レーザスキャニングやトータルステーションによる建物の計測及び座標系に関する理解を必要とするものであり、測量の科目として新たなカリキュラムが開発されている。



第2分科会の講演会場の風景



マカギボン先生(アイルランド、ダブリン工科大学)と筆者

3. その他

- 第2分科会では、BIMを含めた新たな測量教育のカリキュラムや測量教育の良い実践例等を取りこんだ出版物を計画しているところであり、次回のヘルシンキ大会では、次の出版物の取りまとめに向けた研究成果の発表と具体の活動の話が話し合われるものと思われる。
- 第2分科会と関連のある学会会員フォーラムでは、「土地の権利保有に関する責任ある統治に関する自主的なガイドライン（VGTT）」のWGをFAOと連携して設置されることが決められた。
- 第2分科会ミーティングの後、第1分科会と合同で開催された恒例の夕食会に出席し、Cook'n with Gas でニュージーランド料理を楽しみ、分科会メンバーと懇親を深めた。
- 2017年ヘルシンキにおけるFIGのテーマは、「明日の世界を測るーデジタル化から拡張現実へ」で、第2分科会では技術セッションのテーマとして次のトピックスを提案している。
 - ・ 3-DとBIMのカリキュラム
 - ・ 新しい測量者に対する教授法
 - ・ 革新的な学習法と教授法
 - ・ 職業教育の需要と供給
 - ・ 認定と品質保証

以上